

安芸太田町長期総合計画第4回審議会（主な意見）

日 時：令和6年9月4日（水）14：00～16：00

場 所：安芸太田町役場 東館2階大集会室

出席者：21人中 15人

1. 開会

（会長）

計画に向けての骨格が出来上がりつつあるが、重要な骨組み、さらには今後重要な筋肉をつけなければならない。本日はグループに分けて議論を踏まえて、重要な骨組みづくり、さらに筋肉づけの話をしていきたい。

2. 議事

（委員）

重点方針の方向について、ぜひ1項目「生涯学習・ひとづくり・教育の推進～予測不能な時代を生き抜くために～」を付け加えていただきたい。

先般、新教育大綱を策定されました。先の見えない時代だからこそ、自分の人生を自分で決められるよう、本町の恵まれた自然や文化を活用しながら、主体的で対話的な学びを通して必要なたくましさを身に着けた「安芸太田っ子」を育てることを目指しています。この新教育大綱は子どもたちを対象とするものですが、我々大人を取り巻く状況も変わりません。

地域にあっては人口減少が進み、社会やライフスタイルの変化等により人と人とのつながりが薄れ、地域の活力が失われることが危惧される今、ましてや、AIの出現によって10年以内に消えていく職業が話題になるなど現代は少し先の未来でさえ予測が難しい時代です。環境や社会の変化に戸惑うことがこれからもっと増えてくるでしょう。

人生100年時代、町民一人ひとりがより充実し豊かな人生を生き抜くため社会人の学び直しをはじめとする生涯学習・ひとづくり・教育の推進が欠かせないと思います。検討いただきたいと思います。

（会長）

今、委員から話があったように、学校教育、社会教育に限らず、もっと広い意味での「人づくり、人材の養成」というお話であった。資料は、町長の意見を踏まえた3つの重点方針の方向だが、今のようなご意見を組み込みながら、再編、強化していくことも重要であろう。

(委員)

教育大綱について、教育委員もいる中で策定されたのに、なぜ教育大綱に町民の生涯学習の項目が入っていないのかという意見もある。その辺りについて伺いたい。

(委員)

新教育大綱の策定にかかわったので、回答させていただくと、今回の新教育大綱の対象としては、大人が入っていない。これは元々学校教育の子どもたちを対象にした大綱をつくることで議論をしており、大人については想定していない。予測不能な時代を生き抜くためにも、そういった教育、ひとづくりがより大事になってくると思っており、提案した。

(委員)

「5 産業・観光・しごと」の中の農業、林業、水産業の部分で表現としてそれぞれ、広く使い勝手のいい言葉として「振興」とある。この「振興」とは何なのか。例えば、農業で何を振興したら働き場になるのか。若手のハウス栽培の拡充を指すのか。鳥獣被害を少なくすることを「振興」というのか。産直市の活性化なのか。農林水産業について、もう少し具体性を持たせてもらいたい。

「2 健康・医療・福祉」の分野で、「⑧スポーツや運動の活性化で「元気な高齢者の町」安芸太田を実現」とあるが、それだけでいいのか。

「6 コミュニティ」の分野は、「⑤公共施設を3割削減」「⑦太田川の清流復活で「命を支える町安芸太田」を実現」の2つが関連しないと感じている、違和感を覚える。

(事務局)

農林水産業の「振興」の部分について、しごとづくりの分野に入れているのは、基本的に担い手の育成を含め、仕事につながるように持っていかなければいけないということがベースにあるので、そういう意味での「振興」としている。

「6 コミュニティ」に限らず、町長のマニフェストの9つの取組みを、それぞれの政策分野の区分に並べ替えをしているもの。基本的にこれは固定ではなく、どこに入れるのがベストなのかは、議論を通じてこれから整理していく。

施策名が抽象的だというご指摘があったが、「振興」の中でいろいろな施策を包含するため、現段階では大雑把なタイトルになっている。今日の議論の中でも、「こういうところに特化して取り組んでいきたい」というような意見をいただきながら、さらに事務局でブラッシュアップしてまいりたい。

(会長)

学校教育、あるいは社会教育という、従来の分野よりも広く、ひとづくり全般のような議論をしていただければと思う。また、施策の表現、取組みの表現は仮置きであり、現時点での表現なので、今後分科会等でもっと具体的で詳しく思いが伝わるものにするためにご議論いただきたい。

(委員)

「⑤公共施設を3割削減」とあるが、具体的にどのようなことか。

(事務局)

町長のマニフェストの中にもあり、取り組んでいるところ。3つの自治体が合併して安芸太田町になったが、同規模の町と比較して2倍以上の公共施設を抱えている。そこで、公共施設の延べ床面積を3割削減していきたいという思いが含まれる。

(会長)

最後に全体を通じてご意見をお受けしたい。お手元にある施策の名称、町長のマニフェストを踏まえた重点方針、取組については、仮置きということで、この会議を通じて議論していただければと思う。この後3つの分科会に分かれていただき、それぞれの分野に関わる具体的な議論を重点的に進めていただく。進め方について事務局からご説明させていただく。

3 意見交換（グループ討議）の主な意見

(グループ1)

テーマ：「教育・子育て・次世代育成」「健康・医療・福祉」

○子供たち向けの活動や高齢者向けの活動など、それぞれやられているが、だんだん出てくる人たちが少なくなってきたおり、メンバーが固定化している。また、その会を運営される方々も年代が限られてきている。それを次の世代にどうつなげていくのか、どう参加者を増やしていくのかという課題が多くある。

○教育においては、もう少しインターネットやICTを活用することで、安芸太田にいながらも世界的に活躍できる、幅広く外の人たちとすぐ繋がることができる。これを活用できる能力を培っていくことも必要。小中学校と教育関連の指標が上がっているが、夢がある地域を作っていく、将来の子供たちを育てていくというスタンスなのに、それに関連する指標が設定されていない。また、地域の独自性を学ぶ機会を図る指標、郷土愛を培う取り組みというものも今後必要。

○今後の地域活動に参加できる形にしていくために、地域通貨m o r i c a をポイントとして獲得できるようなイベントにして、参加者が行ってみようと思えるような形にしていくことも必要。

○こういったリーディングプロジェクトが必要なのかというと、子どもたちが安心して暮らせる状況、親御さんにもメリットがある対応が重要になってくる。やはり、小児科が地域に必要。安芸太田病院でも診てもらえるが、それを知らない人たちもいる。高齢者に手厚い施策はあるが、知らないと活用できない。地域の様々な情報、住民にとって利便性が高まる情報はしっかり提供していくということが必要。

(グループ2)

テーマ：「産業・観光・しごと」「社会基盤・防災・防犯」

○どの場面にあっても担い手がない。何かやりたくても人手が足りないということが一つの大きなポイントになっている。人手をいかに確保するかというのが一番大きな課題。

○産業振興の方策としては、地域商社あきおおたが成長していくにあたって、地域商社と地域の農業・漁業生産者、そして商工業の方が連携して取り組みたい。しかし、人手をいかに確保するかが課題。人手を確保して地域商社が自立した先にできることが生まれてくるだろうというのがストーリーの一つ。

○産業面で言うと、計画の中には産業としての土木・建設業は含まれていない。土木・建設業は、町の安全面及び災害復旧面を考えても必ず必要な産業。産業振興の面からも捉えてもいいのではないかな。

○観光面では、観光客が日帰り、町の中で過ごすのは半日ぐらいしかない。今後いかに滞在時間を増やしていただくのか。滞在時間を増やすために宿泊施設が必要で、整備が必要。民泊は難しいとなると、大きな宿泊施設を整備するところから観光振興が始まるのだろうと思う。

○観光で人を呼ぶには食べる・遊ぶ・見ることのほかに、体験が大事である。すでに事業者や住民の方が個々に取り組まれているが、それらをまとめるのではなく、それぞれで取り組みは進めていただきつつ、そういったまちづくりや地域活動をしている方たちが集まる場を設けてほしい。

○みんなでこれからの町をどうしていくか、どういう産業を作っていくか、話し合う場を作っていただきたい。これを町主導でやると少し堅苦しくお役所になるので、町がやるのではなく住民の方が自発的に、こういった取り組みをより活発にできるような仕組み・雰囲気づくりが必要。

(グループ3)

テーマ：「生活利便性・環境」「コミュニティ」

○キーワードとして「買い物難民」。店がないので、買い物に行きたくても行けないという人が多いので、それに対応することが必要じゃないかという課題がある。

○キッチンカーや移動販売車など雇用に繋げるために、若い人に起業を勧めていくのはどうかというアイデアもあった。ただし、地域で買物をしていただくことも合わせて考えないといけない。

○住む環境も大事だということ。空き家バンクや改修などされているが、現在空き家バンクに登録されている空き家ほどの広さは必要なく、ひと間で十分だということ。単身世帯をターゲットとするワンルームの物件、一部分だけを改修して貸し出すというようなやり方もある。

○広島市内へ通勤できる環境をどう充実・維持していくか。例えば、パーク&ライドのように、広島市内まで車で行き、町民が利用する駐車場を確保するなど。マイカー&バスのような通勤するためのいろいろな手法が考えられる。

○コミュニティについて、町内自治会におけるデジタル化は、ほかの中山間地域でも議論になるが、デジタル化、例えば回覧板の情報提供や、会議のオンライン参加など、デジタル化を進めるのは難しい。

○モータリゼーションが進んできたように、デジタル化も進んでいくことは必然だが、今はまだそこまでではない。今後大きな課題になってくる。

○中山間地域の濃密なコミュニティを好む人もいればそうでない人も いるということ。この多様な選択をどう確保していくのかが課題。また、担い手の話もあった。情報を広く発信していくことで、少し違った展開が見られるのではないか。いずれにしても、地域住民と転入者お互いがウィンウィンになるコミュニティが良いということは間違いない。

(会長)

それぞれの分野で非常に深刻な課題がある上に、グループで3～4つの分野あったので、取りまとめも大変だったと思うが、重要な指摘事項がたくさん出てきたので、これを今後の議論、総合計画の骨格・筋肉づくりに活かしていただきたい。

根幹は、地域としていかに仕事を作るか。要は雇用の確保。地域として経済を小さくてもいいから循環させていくという視点が重要。今日の議論の中にも重要なヒントはたくさんあると思うし、これまでの具体的な事業にも結びついてきたのだと思う。

ただ、問題は今ある地域資源。人的等の資源は限りがあるため地域外の関係人口等で、いろんな取り組みがある。具体的には、高校で課題探求型の授業、高校と大学の連携で、大学の方でも地域課題研究に活かしていこうとしている。

こういったものをぜひ活かしていく。せっかく動いている高校・大学の取組をうまく雇用確保、ひいてはお金儲けに利用していくという視点をぜひ取り入れていただければと思う。今後具体的な事業施策を議論していく時にも、こういったグループをもう一度活用することもご検討いただけたらと思う。

4. 閉会

(事務局)

本日多くの意見をいただいたので、これをもとに重点方針とか施策とか今一度整理をし、また審議会で諮らせていただく。

重点方針の3つの方向について、「人づくり」を加えたらどうかというご意見があった。これは重要な視点であると考えており、提案した3つに加えるか、取捨選択するか、検討していきたい。町長マニフェストの取組と政策分野がうまく紐づいていないという意見もあった。今後うまく紐づくように議論をすすめていきたい。